

# 永井博先生の退職記念号によせて

経済学部長・経済学会会長 笹 山 茂

2008年3月、本学経済学部を永く支えていただいた永井博先生が退職されました。この度、経済学会では、先生の退職を記念して『経済論集』の特別号を編纂することになりました。ご寄稿いただいた多くの先生方、そして編集を担当された先生方に心より御礼申し上げます。

永井先生が1961年3月同志社大学の経済学研究科を修了され、熊本学園大学(当時は熊本商科大学)に統計学の専任講師として着任された1963(昭和38)年には、未だ経済学部は存在していませんでした。経済学部は1967年(昭和42年)開設ですので、永井先生は経済学部誕生から今日まで経済学部と共に歩んでこられた、文字通り経済学部の歴史そのものであると言っても過言ではありません。

経済学部は2007年の創設40周年記念の一環として、学生が経済学部の一期生を職場に訪ねて当時の学生生活や職業選択等についてインタビューする先輩訪問事業をスタートさせました。その成果は『大先輩に聞く!人生と学生生活のギモン26』(熊本学園大学経済学部編)として、2009年3月に刊行されました。26名のOBの方々のインタビューの中には「印象に残った授業あるいは先生は誰ですか」という項目があるのですが、「統計学の永井先生」という卒業生の声が非常に多く寄せられていました。現在だけでなく、40年前から変わらず学生に慕われていた証左です。学生の面倒見がよいことでも知られている先生ですが、特にマンドリンクラブと水泳部については顧問部長として40数年の長きにわたり学生の指導にあたってこられました。

永井先生は、その人生そのものが経済学部の発展と共にあったといっても過言ではありませんので、大学のほとんどの役職を経験されております。学生部長(1980年1月~1981年12月まで)、教務部長(1982年1月~1983年12月まで)、経済学部長(1986年1月~1987年12月まで)、計算センター長(現在ではe-キャンパスセンター長と名称変更、1988年1月~1989年12月まで)、海外事情研究所長(1994年1月~1995年12月まで)などです。特に、学校法人熊本学園の要職である理事・評議員(1997年4月~2007年7月、評議員は2004年7月まで)は約10年の長期間にわたってつとめられ、文字通り大学および学園の発展に貢献されました。

永井先生のご専門は統計学ですが、就中、経済体制と指数算式の関係です。先生の指数算式

の研究歴についての詳細は、集大成でもある『経済体制と指数・指数算式 - エリ・エス・カジネッツの指数理論と現在 -』（梓出版社、2006年）の「あとがき」に記載されておりますが、先生が到達された結論は、「消費者物価指数の作成に使用される指数算式は、社会経済体制によって規定される」（同書 172 頁）というものでした。ロシア語と中国語の文献に詳しい先生ならではの慧眼です。1976年8月から1977年8月までのロンドン・スクール・オブ・エコノミクス（LSE）での留学が、先生のこれらの研究に大きな影響を与えたと伺っております。先生は大学院発足の1992年4月から2008年3月まで経済学研究科において統計学特殊研究を担当され、退職時の2008年4月からは名誉教授として現在でも後進の指導にあたられております。

永井先生は、専門の統計学だけでなく法律の素養も豊かなのですが、なんと驚くべきことに2008年3月には慶応義塾大学の法学部（通信教育課程）を卒業され、法学士を取得されました。大学では理事という要職にあり、日常業務のお忙しい中、短い夏期休暇の中でスクーリングをこなしたというお話を後で伺ったときは、頭が下がる思いでした。

先生は、学会活動でご活躍されただけでなく、熊本県や熊本市など地域経済の発展のためにその専門知識をあますことなく発揮されたことも付け加えておきます。

最後に、私事になりますが、1982年（昭和57年）4月、私が経済学部採用され、先生にご挨拶に伺ったのは当時教務課と学務課が配置されていた1号館1階だと記憶しています。永井先生は教務部長の要職にあられましたが、教務部長室でにこやかに対応していただいたことを今でも私の記憶の底に鮮やかに残っています。それ以来、先生には節目節目で様々なことでご相談にのっていただきました。1992年（平成4年）、私が国際経済学科長に選ばれ、果たしてこのような責任ある仕事を全うできるか悩んだおり、先生の励ましがなければお引き受けしなかったかもしれません。今日私が熊本学園大学でこのような立場にあるのは先生の暖かいご支援の賜物であると思っております。永井先生の退職記念号のまえがきを書くこととなった深い縁に感謝いたします。